

# ユネスコ

2025.1  
vol. 1182



災害子ども教育支援のユース・ボランティア支援で助成を受けた団体「グローバルユース防災サミット実行委員会」。  
大阪の高校生たちが能登を訪れ、がれきを撤去し被災家屋から家財を搬出するボランティア活動を行った

## CONTENTS

- 1 特集:「令和6年能登半島地震」  
災害子ども教育支援 報告
- 3 会長新年挨拶
- 4 ユネスコ活動の広場
  - 第80回日本ユネスコ運動全国大会 in 新居浜
  - 2024年度ブロック別ユネスコ活動研究会
- 7 TOPICS
  - 書きそんじハガキ・キャンペーン2025 スタート!
- 8 活動報告
  - 世界寺子屋運動
  - U-Smileプログラム —2024年度助成事業—
- 11 お知らせ  
理事会報告

## 「令和6年能登半島地震」の発生から一年。 災害子ども教育支援で被災地を支える

2024年1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する大地震が発生しました。一年の始まりに日本中に衝撃を与え、建物の倒壊や津波の被害などによる死者は498人<sup>(※1)</sup>にのぼりました。被災された皆さまに、改めて衷心よりお見舞い申し上げます。

この地震では、1024校<sup>(※2)</sup>もの学校施設が損壊し、子どもたちを取り巻く学校現場への被害は甚大でした。とくに被害が大きかった輪島市では休校が1ヵ月以上続き、穴水町ではいまま校庭のプレハブ仮設校舎で授業が行われるなど、“いつもどおりの学校生活”とはほど遠い現実があります。さらに、地震に続き、昨年9月には豪雨でも大きな被害が出ました。能登地域の復興は、いままなお厳しい道のりにあるといえます。

当連盟では、地震発生直後から、被災地の子どもたちを支える「災害子ども教育支援」への募金を呼びかけてまいりました。たいへん多くの方々にご協力を賜り、心より感謝申し上げます。いただいたご寄付を活用し、奨学金をはじめとする教育復興支援を進めており、今号でご報告いたします。(P.1-2)

※1 2025年1月7日時点、石川県内。災害関連死含む。

※2 文部科学省情報

きょういくで、あしたへいく。

## 被災生徒への奨学金支援などを実施

当連盟では、昨年1月1日の発災以降、珠洲市・能登町・輪島市などの被災地を視察し、教育現場の状況やニーズの把握に努めてきました。石川県教育委員会や奥能登地域の市町村教育委員会、各学校と繰り返し調整を行いながら、「災害子ども教育支援」による教育復興支援を実施しています。支援では、ご協力いただいたご寄付を活用し、下記の3つのプログラムを行っています。今回は、各プログラムでの支援実績を報告します。  
(学校支援部)

寄付総額：5635万9251円 (2024年12月31日時点)

### 奨学金支援

#### 被災した家庭の子どもたちに奨学金を給付

輪島市、珠洲市、穴水町では、保護者を亡くした、または住居の倒壊・損壊や保護者の失業・収入減などにより家庭の経済状況が悪化し、就学のための経済的支援が必要となった中学1～3年生37名を対象に、月額2万円・返還不要の奨学金支援を行っています。この支援は3年間(2024～2026年度)にわたり実施します。2024年度分の奨学金は、1年分をまとめて対象者の各家庭に直接お送りしました。

支援対象者の中には、家屋の倒壊で保護者の一人を亡くし学費の工面が厳しい家庭や、自宅と工房が全壊して家業ができず収入が不安定になり、奨学金を「高校に進学して野球部を頑張りたい」という子どものために充てる家庭もありました。

### ユース・ボランティア支援

#### 被災地で支援活動を行うグループへの支援

災害ボランティア活動を実施した下記2団体へ活動費用を助成しました。

- **学校法人聖ヨゼフ学園 日星高等学校(京都府舞鶴市)**  
生徒37名と引率の教職員7名、計44名で1日間、輪島市で活動。家財道具の搬出と、搬出家具やがれきの整理などを行った。
- **グローバルユース防災サミット実行委員会(大阪府大阪市)**  
ユース6名と引率者1名、計7名で3日間、輪島市で活動。がれきの撤去や廃材の運搬処理、被災家屋からの家財の搬出、避難所から仮設住宅への引越に伴う家財の運搬などを行った。

### 学校支援

#### 被災した学校や教育施設のニーズに合わせて支援

石川県内の保育所1カ所を含む29校に対し、教育活動の再開や継続に必要な備品などの購入費用を助成しました。

#### ■購入品の一例

**電子黒板**…地震により転倒し、画面が破損して使用不能となった。授業で使用するため、新しい電子黒板の購入費用に充てる。

**室内用折りたたみ鉄棒**…地震で運動場が液状化・損傷し、設置されていた鉄棒が安全に使用できなくなった。体育で使うため、室内で使用できる鉄棒の購入に充てる。

**楽器**…震災で楽器がゆがんだりフレームが曲がったりして使用できなくなったため、新しい楽器の購入に充てる。購入した楽器は、町の人びとを元気づける鼓笛パレードや運動会での鼓笛演奏、音楽の授業での合奏などに使用する。

#### 学校支援 助成先の学校名一覧

**珠洲市** 珠洲市立飯田小学校／珠洲市立上戸小学校／珠洲市立正院小学校／珠洲市立蛸島小学校／珠洲市立直小学校／珠洲市立みさき小学校／珠洲市立若山小学校／珠洲市立三崎中学校／珠洲市立緑丘中学校／珠洲市立大谷小中学校／珠洲市立宝立小中学校

**能登町** 能登町立鶴川小学校／能登町立宇津小学校／能登町立小木小学校／能登町立松波小学校／能登町立柳田小学校／能登町立小中中学校／能登町立能都中学校／能登町立松波中学校／能登町立柳田中学校

**輪島市** 輪島市立町野小学校／輪島市立門前西小学校／輪島市立門前東小学校／輪島市立東陽中学校／輪島市立門前中学校／輪島市立輪島中学校

**志賀町** 志賀町立富来小学校／志賀町立富来中学校

**内灘町** 内灘町立北部保育所

※いずれのプログラムも2024年12月現在の支援実績。今後も申請があれば受け付け、支援していく予定です。



## 被災地の現状と奨学金支援について ～支援先の教育委員会から～

珠洲市教育委員会事務局 主幹兼学校教育係長

山下 裕子 様

珠洲市では、津波の影響を受けた1校を除く市内すべての学校が防災後に避難所となりました。現在は9月の豪雨被害が大きかった地域を除き、学校避難所は解消されています。市外県外へ避難した児童生徒は少しずつ戻ってきていますが、地震前に比べると児童生徒数は3割弱減少しました。また、一歩ずつ進んできた矢先の9月に豪雨災害が発生。現在、市全体の復旧・復興計画が修正され、取り組みが進められています。

今回支援が決定した奨学生の保護者からは「子どもには、未来をあきらめることなく、できる限り震災前と同じだけの選択肢を与えてあげたいと思っており、その一助として奨学金を有効に使わせていただきたい」という声も届いています。

教育が果たす役割は大きく、引き続き息の長い支援体制が必要とされています。珠洲市としても、学校職員、事務局職員が一丸となり、子どもたちが豊かに希望を持って前に進めるよう、教育の充実に取り組んでいきます。



津波によって正面玄関階段の前まで流木やボートなどの漂着があった  
(写真提供：珠洲市立みさき小学校)



学校が避難所となり、給食に自衛隊の炊き出し支援を受けていた時期もあった  
(写真提供：珠洲市立上戸小学校)

## ユース・ボランティア支援 助成事例の紹介

### ● 学校法人聖ヨゼフ学園日星高等学校(京都府舞鶴市)

日星高等学校生徒会は、能登半島地震が発生した直後から募金活動に取り組んできました。この活動を通して「現地でボランティア活動をしたい」という生徒たちの声上がり、輪島市災害ボランティアセンターと連携し、市内の被災家屋の復旧支援活動を行いました。

現地に向かったのは、37名の生徒と7名の教職員です。参加者は家財道具の搬出やがれきの整理を行いました。当日は厳しい暑さの中での活動となったため、熱中症対策がとくに重要でした。インソールやマスク、医薬品など安全に作業を進めるためのアイテムに加え、熱中症予防のための塩分タブレット、熱中症対策タオルなどが必要となり、それらの費用の支援を申請しました。

今回、予想以上に多くの生徒が自ら手をあげ、ボランティア活動に参加しました。活動後、生徒からは「もっと作業を続けたかった」「参加して本当によかった」など、前向きな言葉が聞かれました。また、倒壊家屋の持ち主の方々と対話し、感謝の言葉をいただくことで、「本当に人のために役立つ活動ができた」という充実感と、被災された方々の思いに寄り添う気持ちが生まれた様子でした。8月末の2学期の始業式では「ボランティア報告会」を全校生徒参加で実施し、意義や経験を学校全体へ伝えました。



「日星NOTOボランティアプロジェクト」と銘打ち、生徒・教職員の自主的なメンバーで片道6時間かけて輪島へ向かった

### ユース・ボランティア支援申請 受け付け中!

ボランティア活動に取り組むユースグループに対し、以下の対象で助成を行っています。ぜひ申請をご検討ください。

- 原則として災害発生から2年以内に行われる活動
- 災害の規模を問わず、以下の(1)または(2)に該当する活動
  - (1) 被災地の社会福祉協議会や公的機関が、災害復興のために公募しているボランティアの派遣要請に基づいた支援活動
  - (2) 支援先の要請に基づく、被災者への教育的・心理的サポートなどの活動

詳細は当連盟ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.unesco.or.jp/activitiesitem/educationsupportitem/28917/>





## 2025年 会長新年挨拶

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 会長

佐藤 美樹



昨年を振り返ると、まず、1月1日に発生した能登半島地震が思い起こされます。1年の始まりに起こった大地震は、多くの人びとに被害をもたらし、能登地域の子もたちの教育環境も脅かしました。そのような中、当連盟の災害子ども教育支援に全国から温かいご寄付が集まり、被災した子どもたちに奨学金などの支援を届けることができました。ご協力いただきました皆さまには感謝を申し上げます。

また、さまざまな困難をかかえる国内の子もたちを支援するU-Smileプログラムは、各地のユネスコ協会・クラブが続々と参画し、自治体や企業との連携も進んでいます。「9人に1人の子どもが相対的貧困」※といわれる中、子どもたちが誰一人置き去りにされることなく、夢や希望をもてる社会となることを目指して、これからも支援の輪を広げてまいります。

さらに、世界においても、ウクライナ戦争や中東の戦火の拡大など、国際平和への脅威や国際社会の分断が深まっています。当連盟の世界寺子屋運動では、コロナ禍で拡大した格差や紛争などの影響により教育機会から疎外された人びとへの支援を、時代に即したかたちで継続して実施してまいります。

国内外のさまざまな社会的課題を克服していくためには、UNESCO 憲章前文の意味を改めて理解し、UNESCOの普遍的な使命を再確認するとともに、会員や企業、行政、民間団体などが協力し合い、若年層を含めたネットワークを拡大し、地域のユネスコ運動を促進していくことが必要です。また、今年を終戦から80年にあたる年です。わたしたちが長年取り組んできた教育を通じた平和構築活動を振り返りながら、今一度平和の重要性を考え、より一層活動が広がる年になることを期待しています。

民間ユネスコ運動にかかわる全員で、UNESCOが目指す平和の実現のため、ともに草の根活動に取り組んでいきましょう。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

※データ出典：厚生労働省



# ユネスコ活動の広場

## 第80回日本ユネスコ運動全国大会 in 新居浜

2024年11月23日(土)、「持続可能な未来へ～SDGsの先進事例から学ぶ～」をテーマに、愛媛県の新居浜ユネスコ協会を主管として、第80回日本ユネスコ運動全国大会in新居浜を開催しました。本大会には全国からユネスコ協会・クラブ会員、地域の方々、そして韓国ユネスコ協会連盟からも参加があり、約400名が集いました。

大会当日および翌日実施されたエクスカージョンについて報告します。

(組織部)

### 開会前

#### 新居浜の「おもてなし」を堪能!

会場とは別室で、新居浜ユネスコ協会会員による呈茶でのおもてなしが行われ、参加者同士の交流の場となりました。また、特別に設置されたみかんジュースコーナーは、行列ができるほどの人気でした。



参加者受付を済ませると呈茶や「蛇口からみかんジュース」でおもてなし

### 全国大会

#### 持続可能な社会づくりの取り組みを学ぶ

記念講演では、「SDGsの先進事例から学ぶー別子銅山の環境対策から新居浜港CNPへー」と題し、住友史料館顧問・元広瀬歴史記念館名誉館長の末岡照啓氏が登壇。別子銅山の持続可能な取り組みと、脱炭素化を目指す新居浜港のカーボンニュートラルレポート(CNP)計画について講和がありました。

また、新居浜市内のユネスコスクール小中高校4校は、「ESD学びの場からの発信」として、それぞれの学校でのESDの実践を発表。惣開小学校は、当連盟のSDGsアシストプロジェクトの取り組みについて報告しました。

記念講演では地域経済の中心的役割を担いながらも環境保全に努めた別子銅山の取り組みなどをSDGsの先進事例として解説



ユネスコスクールである愛媛県立新居浜南高等学校、新居浜市立多喜浜小学校、惣開小学校、船木中学校の4校がESDの実践を発表。(写真は多喜浜小学校)

### 懇親会

#### 出会いと再会の場 10回出席者表彰も

懇親会の開会に先立ち、全国大会10回出席者表彰を行いました。会場からは温かい拍手がおくられました。懇親会には約180人が参加。日頃接点が少ない遠方地域の会員同士で情報交換を行う場となりました。中には30年ぶりに再会した会員もおり、大いに盛り上がりました。



10回出席者表彰。

右から、藤野卓郎氏(新居浜ユネスコ協会)、佐々木嘉直氏(岩手県ユネスコ連絡協議会)、有光慶真氏(松山ユネスコ協会)、日本ユネスコ協会連盟 佐藤美樹会長

### エクスカージョン

#### 別子銅山を体感!

大会翌日に実施したエクスカージョンには約50人が参加。前日の講演や学校の事例発表で取り上げられた別子銅山を訪れ、実際に現地を見ることで学びが深まったと好評でした。



ガイドの案内のもと、別子銅山を見学した

来年度の全国大会は、2025年10月18日(土)、石川県金沢市で開催します。ぜひご参加ください。



## 2024年度ブロック別 ユネスコ活動研究会 グループディスカッションを通じてブロック内の交流を促進

全国のユネスコ協会・クラブは9つのブロックに分かれており、毎年ブロック内の連携強化や学び合いの場として、それぞれの地域の特性を生かしながらブロック別ユネスコ活動研究会(以下、ブロ研)を開催しています。

今年度の特徴は、複数のブロックでグループディスカッションが行われたことです。講演や発表を聞くだけでなく、グループ内で意見を交わすことで、学びが深まるとともにブロック内の交流も促進されました。

また、日本ユネスコ国内委員会委員、青年評議員、当連盟職員がそれぞれ報告を行い、地域の枠を越えたユネスコ運動の動きについて情報共有を図る機会にもなりました。

以下、全国大会併催ブロック(四国)以外の8つのブロ研の成果を報告します。  
(組織部)

※四国ブロックは来年度11月1日(土)に香川県高松市で開催予定です。



今年度は複数のブロックで、小グループに分かれてグループディスカッションが行われた(写真は北海道ブロ研)



日本ユネスコ国内委員会委員からは、同委員会やUNESCOの最新情報を報告。中部西ブロ研で発表する高木要志男委員(富山ユネスコ協会)



青年評議員からは、青年の活動事例の共有と協力の呼びかけなどを行った。中部西ブロ研で発表する今中麻美評議員(名古屋ユネスコ協会)

### 📍 北海道ブロック

テーマ	～広げよう人の輪 届けよう子どもの笑顔～
開催日	2024年10月19日(土)
開催地	北広島市芸術文化ホール(北海道北広島市)
主管	北広島ユネスコ協会
参加者数	約90名

北広島市副市長 川村裕樹氏が、プロ野球チームの本拠地を誘致した市の大きな挑戦や、行政と民間の連携、持続可能なまちづくりなどについて記念講演を行いました。事例発表では、北広島市立西部中学校がユネスコスクールとしての取り組み、北広島ユネスコ協会が持続可能な社会の推進について、それぞれ発表しました。意見交換会は「ユネスコ協会の活動現状と課題」をテーマとし、各グループで活発な意見交換が行われました。

来年度は北海道江差町で11月15日(土)に開催予定です。

北広島市副市長 川村裕樹氏による  
記念講演



### 📍 東北ブロック

テーマ	育もうユネスコの心 ～ユネスコ運動の活性化をめざして～
開催日	2024年10月5日(土)
開催地	ホテルリッチ&ガーデン酒田(山形県酒田市)
主管	酒田ユネスコ協会
参加者数	約130名

山形県唯一のユネスコ協会である酒田ユネスコ協会が主管。記念講演では、地元で活動を続ける米田佐之助氏が、紙芝居をしながら山形弁の面白さを紹介し、標準語教育や民芸運動、人権について語りました。事例発表では、北上ユネスコ協会(岩手県)、みやぎ北ユネスコ協会(宮城県)、酒田ユネスコ協会が平和活動やユース連携について発表。グループ協議では、「自身のこれまでのユネスコ活動」について話し合い、会員間の交流を深めました。

来年度は福島県白河市で11月8日(土)に開催予定です。

昔ながらの紙芝居のスタイルで  
講演する米田佐之助氏






## 📍 関東ブロック

テーマ	進めよう! 平和を目指して、SDGs は自分ごとに、いざアクション!!		
開催日	2024年10月12日 (土)		
開催地	つくば国際大学 (茨城県土浦市)		
主管	茨城県ユネスコ連絡協議会	参加者数	約200名

全日本合唱コンクール全国大会で金賞を獲得した経験がある土浦第二小学校合唱団の美しい歌声から本研究会は始まりました。いまでできること、これから一緒に知恵を出し合い課題解決に取り組めることを念頭に「持続可能な開発目標 (SDGs) -残された6年の挑戦-」と題した基調講演の後、3つの分科会「SDGs活動と民間ユネスコの役割」「平和活動・世界寺子屋運動と国際交流」「世界遺産・未来遺産」に分かれ、学びを深めました。

来年度は埼玉県深谷市で9月27日 (土) に開催予定です。

オープニングアクトで合唱を披露した土浦市立土浦第二小学校




## 📍 中部東ブロック

テーマ	今、平和を考えると ～平和のとりでを築くために私たちにできること～		
開催日	2024年 9月28日 (土)		
開催地	沼津市民文化センター (静岡県沼津市)		
主管	沼津ユネスコ協会	参加者数	約90名

平和をテーマに講演、座談会が組まれました。講演では、女優の斉藤とも子氏、ドキュメンタリーフォトグラファーの小松由佳氏が登壇し、それぞれ実体験をもとに平和への取り組みや考えを語りました。その後、斉藤とも子氏をファシリテーターとし、小松由佳氏、静岡県内の高校生5名、当連盟職員と「平和を守ること、生きることの大切さ」をテーマに座談会を開催、高校生の平和に対する考えを皆で共有しました。

来年度は神奈川県鎌倉市で11月22日 (土) に開催予定です。

斉藤とも子氏による講演




## 📍 中部西ブロック

テーマ	Learnig to live together 「共に生きることを学ぶ」 ユネスコ活動の実践		
開催日	2024年10月19日 (土)		
開催地	富山電気ビルディング (富山県富山市)		
主管	富山ユネスコ協会	参加者数	約110名

国登録有形文化財 (建造物) に登録されている歴史ある富山電気ビルディングで開催した今回の中部西プロ研は、「共に生きることを学ぶ」ユネスコ活動の実践について考える場となりました。分科会は、「平和教育・国際交流」「ESD推進」「ユネスコ活動共創」をテーマにグループに分かれて実施。当日の午前中、別会場の小学校で岐阜県ユネスコ協会の協力により特別企画「能登に小さな光を届けよう」(光る消しゴムづくり・科学ワークショップ)を実施し、講師がその内容を分科会で発表しました。制作した光る消しゴムは、後日、珠洲市立若山小学校に届けられました。

来年度は10月18日 (土) に「第81回日本ユネスコ運動全国大会in金沢」と同時開催の予定です。

富山市立堀川小学校で開催された光る消しゴムづくり



## 📍 近畿ブロック

テーマ	夢を追いかけて、ともに生きる持続的な未来へ ～世界遺産高野山で会いましょう～		
開催日	2024年10月27日 (日)		
開催地	高野山大学松下講堂黎明館 (和歌山県高野町)		
主管	伊都・高野山ユネスコ協会	参加者数	約150名

真言宗の総本山である高野山での開催。基調講演では、「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録20周年を記念して、高野山の町石の歴史とその寄進者について講和がありました。活動事例発表では、川西ユネスコ協会(兵庫県)が「川西のたからもの発掘プロジェクト」、橋本ユネスコ協会(和歌山県)が橋本高校の探究学習を、それぞれ紹介しました。

来年度は滋賀県長浜市で10月25日 (土) に開催予定です。

全国高校総合文化祭の日本音楽部門で文化庁長官賞を受賞した和歌山県立橋本高校邦楽部による琴の演奏で幕を開けた




## 📍 中国ブロック

テーマ	国際貢献・地域とユネスコ活動のこれまでとこれから -広島県の5つの地域ユネスコ協会の取り組みから-		
開催日	2024年 9月21日 (土)		
開催地	広島大学教育学部棟 (広島県東広島市)		
主管	広島県ユネスコ連絡協議会	参加者数	約90名

中国ブロックでは、顕著なESD活動を行っている団体を表彰する「ESD活動顕彰」を実施しており、中国ブロック各県内から推薦された6団体への表彰、各団体の活動発表を行いました。パネルディスカッションでは、広島県内5つのユネスコ協会各会長が、それぞれの協会の取り組みや運営方針を報告し、その内容をもとに、5つのグループに分かれて分科会を実施しました。

来年度は岡山県倉敷市で11月8日 (土) に開催予定です。

分科会の様子。広島県内5つのユネスコ協会会員が各分科会を進行した




## 📍 九州ブロック

テーマ	これまでのユネスコ活動を次世代につなぎ、だれ一人とり残さない社会をめざして		
開催日	2024年10月26日 (土)		
開催地	J:COM ホルトホール大分 (大分県大分市)		
主管	大分ユネスコ協会	参加者数	約110名

今年度は、主管の大分ユネスコ協会が精力的に取り組んでいる大分県高等学校ユネスコクラブ等交流研修会を兼ねた開催となり、多くの高校生が参加しました。大分県立臼杵高等学校、宮崎県立宮崎南高等学校のユネスコ部が活動報告を行い、立命館アジア太平洋大学の留学生との交流では、全員がグループに分かれて留学生の話聞きながら積極的に話し合い、大人の会員にとっても貴重な経験となりました。

来年度は沖縄県那覇市で11月8日 (土)、9日 (日) に開催予定です。

ユネスコ協会会員、高校生、留学生が活発に交流した



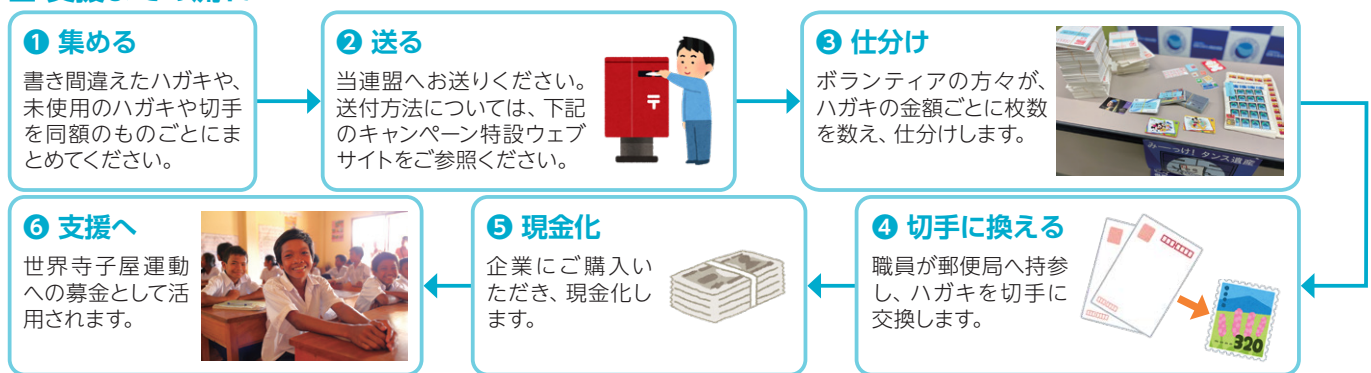
## 書きそんじハガキ・キャンペーン2025 スタート! ~タンス遺産で国際協力~

書きそんじハガキ・キャンペーンは、世界へ学びの場を広げる「世界寺子屋運動」の施策のひとつで、ハガキや切手、プリペイドカードなどのタンス遺産を集め、寄付に換える取り組みです。1990年に活動を開始した世界寺子屋運動は、これまで135万人以上の人びとに教育の機会を提供してきました。その資金の約4割を支えているのが本キャンペーンです。 (海外事業部)

### 書きそんじハガキ・キャンペーン2024のご報告

前回のキャンペーン(2023年12月~2024年11月)では、寄付の総額が3625万円相当にのぼりました。ユネスコ協会・クラブからの162件をはじめ、学校・団体・個人を含めると合計1457件と、たいへん多くの皆さまにご協力を賜りました。

#### ■ 支援までの流れ



### 書きそんじハガキ・キャンペーン2025にご協力ください

書きそんじハガキ・キャンペーン2025では、「タンス遺産は世界を救う切り札になる!」をキャッチコピーに、プリペイドカードなどの使いそんじローたちがカードゲームの切り札のようにかっこよく登場。さらに、CM動画では「タンス遺産3兄弟」がアイドルとなってキャンペーンを盛り上げます。大掃除や断捨離でタンスに眠っている金券などが出てきたら、ご協力をお願いいたします。

なお、キャンペーンのビジュアル・CM動画制作には、今回も株式会社電通にご協力いただきました。

#### ■ 回収グッズお申込みフォーム

回収にご協力いただける方には無料で回収グッズをお送りします。下記URLもしくは2次元バーコードよりお申込みください。

<https://forms.office.com/r/CppdcFRBzi?origin=QRCode>



#### ■ キャンペーンCM動画

<https://www.youtube.com/watch?v=gAjGmzwaRjo&t=23s>



#### ■ キャンペーン特設ウェブサイト

<https://www.unesco.or.jp/terakoya/kakisonji/>



#### 回収対象になるもの

- 書きそんじハガキ、年賀ハガキ
- 未使用の切手
- クオカード
- 図書カード
- テレフォンカード
- 全国百貨店共通券
- JTB商品券
- おこめ券・ビール券 など

#### ■ 回収グッズ

回収ボックス▶



▼ポスター(A3サイズ)



チラシ(A5サイズ)▶



(タンス遺産3兄弟) DENTSU INC.



## 世界寺子屋運動

世界寺子屋運動は、現在、カンボジア、ネパール、アフガニスタン、ミャンマー（バングラデシュ国内のミャンマー難民）の4カ国で、教育を必要とする人びとにその機会を提供しています。各国での活動の最新情報をお届けします。（海外事業部）

### カンボジア

#### ノンフォーマル教育で 中学校修了資格を得て、高校進学が可能に

カンボジアでは、公教育からドロップアウトした子どもたちを対象とした小・中学校クラス、成人向けの識字クラス、就学前の幼稚園クラスなどを通じて、合計977人を支援しています。

今年度は、2023年に一部の寺子屋で開始した中学校クラス(LSEP)で初の卒業生が誕生する重要な年です。LSEPは、寺子屋で2年間修学すると中学校修了資格が得られ、高校進学が可能となるため、子どもたちの選択肢を広げる画期的な試みです。政府と協力して行っているこのプログラムについて、今後は、生徒たちの満足度や学習成果、進路、公立中学校卒業生との学力の差異などを検証し、他の寺子屋への拡大を検討します。



LSEPのクラスで学習する2年生の生徒たち

また、カンボジアでは23軒目となる寺子屋の建設を進めており、2024年度内に完成予定です。

### ネパール

#### 保護者や女子生徒へ向け、 衛生の知識や栄養学を学ぶ研修も

ルンビニでは、新型コロナウイルスの影響を受けた子どもたちに向けた幼稚園クラスや小学校クラス、成人識字クラスや職業訓練、寺子屋を運営する人びとへの研修に注力しています。

プロジェクトでは、幼稚園クラスの保護者や小学校クラスの子女生徒を対象とした研修も実施しています。研修を通じて、妊娠時に必要な栄養素、子どもの公衆衛生(手洗い、歯磨きなど)、思春期の心身の変化や生理、栄養学などを地域の保健師ら専門家から学んでいます。

また、新型コロナウイルスの影響で事業が中断したことから、2020年から2025年までの予定だった事業を2026年まで延長することを検討。対象となる23の寺子屋が運営面



保護者向けの研修で、妊婦に必要な栄養素について学ぶ

でも財政面でも自立できるよう、運営委員への研修や、寺子屋と地方政府の連携強化のための活動に力を入れていきます。

### アフガニスタン

#### 職業訓練事業がスタート

政変後、経済が混迷し、貧困に苦しむ人びとが増加する中、カブール市内の2カ所で成人男性を対象とした職業訓練事業を開始しました。この事業は、アフガニスタンの労働社会問題省との協議を重ねた上で実施されており、コース設定にあたっては受講者の希望や修了後の就職可能性を考慮して決定しました。現在、裁縫、家電修理などの4種類の職業訓練コースが10クラス開講されており、約200名が受講しています。

**受講者の声**：「いまは路上でスープを売っていますが、3人の子どもを養うことができないため、家電修理コースを受講しています。内容は決して簡単ではありませんが、家族のためにも諦めるわけにはいきません。将来、収入が増えることを期待して最後まで取り組みます」



受講者のガルブディンさん

### ミャンマー

(バングラデシュ国内のミャンマー難民)

#### 識字能力と収入の向上を 目指して

ミャンマー国内での活動が困難なことから、2024年2月から6月にかけて、ミャンマー国境に近いバングラデシュのココスバザールでミャンマー難民(キャンプ周辺住民を含めて300人)を対象に、識字および技術訓練を実施しました。活動を通じて受講者の英語やビルマ語の識字能力が向上したほか、受講者の8割が、学んだ技術を継続して活用し、収入も向上しています。

今年度についても、女性を対象とした技術訓練(美容師など)や識字教員の養成などの事業について、UNESCOダッカ事務所と協議しており、2025年3月までに事業を開始する予定です。

## U-Smileプログラム — 2024年度助成事業 —

## 手を取り合っって子どもたちを支える各地の活動

「U-Smile ～みんなでつなぐ子ども応援プログラム」では、相対的貧困や虐待、ネグレクト(育児放棄)、不登校など、さまざまな理由により困難な状況に置かれた日本の子どもたちを対象に、地域協働型包括教育支援を行っています。自治体や教育機関、地元企業や他団体などと連携し、学習支援・居場所支援・体験支援などを通じて、すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会となることを目指しています。

プログラムの一環で、ユネスコ協会・クラブなどの団体が行う、包括的な子ども支援の取り組み・活動に対し、活動費用の助成を行っています。助成事業の対象期間は1年間で、最大3年間助成を継続することができ、その後各事業が自立して運営できるように促すことを目指しています。

今年度は、新規5団体(下記4～8)を含む8団体への助成を実施しています。(教育と社会の課題支援部)

## 2024年度の助成団体と活動内容

## 1 維新隊ユネスコクラブ

活動地 群馬県前橋市

## 事業名

食事つき個別指導型無料塾「ステップアップ塾」及び食事つき無料自習室「STUDY CAMP 前橋B.O」

## 主な活動

- 毎週土曜日、高校生・大学生のボランティア講師による無料塾
- 平日に自習室を無料開放

## 2 高知ユネスコ協会

活動地 高知県高知市

## 事業名

- 食事つき個別指導型無料塾「ステップアップ塾」及び食事つき無料自習室「STUDY CAMP 高知はりまやB.O」
- 高知県の教育格差とこれからの未来シンポジウム

## 主な活動

- 毎週土曜日、高校生・大学生のボランティア講師による無料塾
- 平日に自習室を無料開放
- 教育格差や体験格差の実態についての情報共有や、格差是正に向けた自然・文化体験を実施
- 2025年2月に高知市内で格差是正をテーマにしたシンポジウムを開催(予定)

## 3 箕面ユネスコ協会

活動地 大阪府箕面市

## 事業名

学習支援「てらこーち」

## 主な活動

- 学習と食事をセットにした居場所支援の提供
- 自然の中での遊びを通して、子どもたちに森の多様性や豊かさ、課題に触れる体験機会を提供

## 4 京都ユネスコ協会

活動地 京都府京都市

## 事業名

- 「京都ユネスコ・こどもスマイル」事業・こども食堂プロジェクト
- 「京都ユネスコ・こどもスマイル」事業・寺子屋プロジェクト

## 主な活動

- 月1回、調理可能な貸しスペースを利用した食事提供と学習支援活動を実施
- 月1回、週末に、不登校の児童・生徒を対象とした公開講座を開催

## 5 津山ユネスコ協会

活動地 岡山県真庭市

## 事業名

おちあい おむすび ぷろぐらむ

## 主な活動

- 週に1回、スーパーマーケットのイベントルームで基礎学力定着のための学習支援
- 週に1回、食事提供を含めた居場所支援
- 農業体験、感動体験の機会を提供

## 活動紹介 pick up!

岡山県真庭市落合地区の小学生・中学生を対象とした学習支援を、毎週水曜日の18～20時に開催しています。講師は元教員2名で、生徒は各自教材を持ちよって自主勉強をし、わからないところを講師が教えるという方式です。生徒同士お互いに教え合ったり、講師によるワンポイント講座があったりと、楽しく学べる環境づくりを目指しています。

ほかにも、子ども食堂を運営したり、地元高校生の協力によるイベントを定期的で開催したりと、地域全体で子どもたちを見守っています。中山間地域で大学生がおらず、過疎で消滅可能性都市といわれている中、「地域創生の源は子どもである」という想いで活動しています。



わからないところをお互いに教え合う中学生たち



6 高松ユネスコ協会 活動地 香川県高松市

事業名

ユネスコ寺子屋サロン及び屋島自然体験学習ツアー

主な活動

- 週に1回、ボランティア講師による学習支援と、学校や日常生活での困りごと相談への対応
- 2024年12月に、地質学・歴史の学び、新屋島水族館の見学などを行う屋島自然体験学習ツアーを実施。職業理解の機会と感動体験を提供

活動紹介 pick up!

高松市内では既に自治体による学習支援などが行われています。そこで、高松ユネスコ協会では、支援が十分ではない隣のさぬき市で小学生・中学生を対象とした学習支援を行っています。毎週日曜日の10～12時に開催し、現在、生徒7名と講師10名が登録。生徒は自分で勉強したい教材を持参して学習し、わからない箇所を講師に個別に指導してもらう方式です。講師は地元の大学生や教員経験者で、講師1名につき生徒2名までの指導を基本としています。学習支援に留まらず、子どもたちの言葉に耳を傾けて温かくサポートするほか、保護者から寄せられる学校や日常生活での困りごとの相談にも応じています。これらの取り組みを通じて、子どもたちや保護者の日常の不安や孤独感の軽減を図り、自己肯定感の向上を目指しています。



ボランティアで来ている教育学部の大学生が中学生に英語を教えている様子

7 蓮田・白岡地方ユネスコ協会 活動地 埼玉県蓮田市

事業名

U-スイミー ～みんなで作るこども・若者の居場所～

主な活動

- 週1回、駅前の行政センターで学習支援や居場所支援（ゲーム、工作、映画鑑賞、読書、ボランティア活動、料理教室など）
- 大学のユネスコクラブと連携しイベントを実施



大学のユネスコクラブと連携してキックオフイベント「アコヤ貝から世界に一つだけの真珠を取り出そう!」を開催

8 八千代ユネスコ協会 活動地 千葉県八千代市

事業名

SDGsベース・子どもの居場所ネットワーク ～地域・子ども達の居場所作り事業

主な活動

子ども食堂、不登校児支援、中高生カフェ、若者の居場所など地域のさまざまな活動団体をつなぐネットワークを展開し、物資や人材を支援

各団体の詳細な活動は当連盟のウェブサイトで公開しています。

下記の2次元バーコードからご覧ください。

1～4

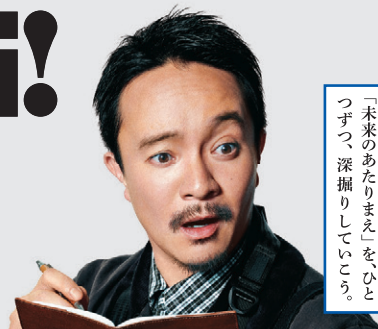


5～8



DNPの一面! DNP FUTURE PRESS

DNPがつくる  
未来の  
あたりまえとは!?



常識は日々アップデートされていく。こは、多彩な技術と視点をもつ人々が出会い、混ざり、掛け合わさりながら、まだ見たことのない新しい未来を自ら描きだす場所。その名前はDNP。ときには、分野や企業の垣根を越えて、人々の身近にあたりまえに存在する欠かせない価値を生みだし続けている。さあ、DNPがつくる次の「未来のあたりまえ」を、ひとつずつ深掘りしていこう。

未来のあたりまえをつくる。

DNP

DNPの一面

大日本印刷



## お知らせ

### 「プロジェクト未来遺産2024」登録決定

今回で14回目となった「プロジェクト未来遺産」の募集には、全国から32件の応募がありました。有識者によるワーキンググループでの選考と現地調査を行い、2024年12月16日(月)に開催した未来遺産委員会での審議を経て、新たに以下の4プロジェクトの登録が決定し、合計87プロジェクトとなりました。1月以降、各地域で登録証伝達式が開催される予定です。

- ① 標津遺跡群の魅力世界発信プロジェクト (特定非営利活動法人自然・文化遺産保存活用ネット／北海道標津郡標津町)
- ② 「寺崎のはねこ踊り」保存・伝承プログラム～先人の財産を未来へ～ (寺崎はねこ踊り保存会／宮城県石巻市)
- ③ 小鹿野歌舞伎継承プロジェクト (小鹿野歌舞伎保存会／埼玉県秩父郡小鹿野町)
- ④ クモが紡ぐ！地域のきずな～日本三大くも合戦 横綱決定戦～ (富津フンチ愛好会／千葉県富津市)

※各プロジェクトの活動内容は次号で紹介予定です。

### 「第49回みどりの絵コンクール」 日本ユネスコ協会連盟賞決定

自然に親しみ、自然の美しさや大切さを知ってもらうことを趣旨として、三菱UFJ環境財団との共催で毎年開催している絵画コンクール。2024年は全国の幼児、小学生から寄せられた2万1365作品から、最優秀賞9点、優秀賞32点、入選346点を選出。写真は「わたしが守りたい身近な自然」部門で最優秀賞を受賞し、日本ユネスコ協会連盟賞に選ばれた作品です。



「田んぼ」  
わたしがつかまえた  
生きものたち  
関谷 母香さん  
愛知県豊山町立  
志水小学校2年

## 理事会報告

### ■第566回理事会

11月16日(土)、オンラインにより開催した。

#### I. 決議事項

1. 役員(理事・監事)及び評議員選任に関する選考委員会の設置

⇒ 審議の結果、原案どおり決議された。

#### II. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等

- (1) 組織部会
- (2) 財務部会
- (3) U-Smile部会
- (4) 世界寺子屋運動ガイドラインについて
2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

⇒ 協議の結果、いずれも承認された。

#### III. 報告事項

1. 担当理事からの報告 (学校関連・災害復興支援) 安田理事 (戦略広報) 小林理事
2. 青年理事報告
3. 2024年度中間決算
4. 情報セキュリティ 監査報告
5. 2024年度 事業進捗報告
6. 代表理事の職務執行状況報告 (2024年9月15日～11月15日)
7. 後援・共催事業
8. その他

# Innovating Energy Technology

## エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、  
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、  
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

**FE 富士電機**

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の精神に共鳴した人びとによって1947年、世界にさきがけ仙台で始まった、民間ユネスコ運動の日本における連合体です。現在全国に約270のユネスコ協会・クラブがあります。会長：佐藤美樹 副会長：大津和子・見上一幸 理事長：鈴木佑司